

安佐北区まちづくり懇談会 議事録要旨

1 日 時 平成31年3月6日（水）14時から16時

2 場 所 安佐北区民文化センター 大会議室

3 出席者

(1) 委員 18人全員出席

石井委員、中山委員、河野委員、藤原委員、大倉委員、杉野委員、山田委員、元木委員、
岩谷委員、水口委員、大石委員、大島委員、佐々木委員、土井委員、山本委員、
平岡委員、尾田委員、増谷委員

(2) 区役所

区長、副区長、厚生部長、農林建設部長、下水道担当部長、区政調整課長、
地域起こし推進課長、地域起こし推進課職員

(3) 企画総務局

政策企画課課長補佐、政策企画課職員

4 議題

(1) 座長、副座長の選出

(2) 広島市総合計画審議会での審議状況について

(3) 安佐北区まちづくり懇談会の進め方等について

(4) 安佐北区の現状と課題

(5) 安佐北区のまちづくりの方向性について

5 公開・非公開の別 公開

6 傍聴人

(1) 一般傍聴者 0名

(2) 報道関係 1名

7 会議資料名

(1) 議事資料

ア 広島市総合計画審議会の審議状況について

イ 安佐北区まちづくり懇談会の進め方等について

ウ 安佐北区の現状と課題

エ 安佐北区のまちづくりの方向性について

(2) 参考資料

ア 安佐北区まちづくり懇談会設置要綱など

イ 広島市が直面する中核課題に対する対応策の検討について

ウ 安佐北区の概要（平成 30 年度版）

エ 広島市への提言書（4 地区）

8 議事内容等

(1) 区長あいさつ

(2) 委員自己紹介

(3) 座長、副座長の選出

座長に石井委員が選出されたのち、座長の推薦により、安佐北区まちづくり懇談会設置要綱を変更（1 名→4 名）し、副座長に大畠委員、佐々木委員、土井委員、山本委員が選出された。

(4) 広島市総合計画審議会での審議状況について

資料 1 及び参考資料 2 により、企画総務局政策企画課より説明を行った。

(5) 安佐北区まちづくり懇談会の進め方等について

資料 2 により説明を行った。

(6) 安佐北区の現状と課題

資料 3 により説明を行った。

(7) 安佐北区のまちづくりの方向性について

資料 4 により説明を行った。

9 発言要旨

(3) 座長、副座長の選出について（副座長の選出にあたり）

（石井座長）

副座長については、私の方から一つご提案を差し上げたいと思っている。今後 10 年間の安佐北区の将来を考える会である。安佐北区は大きな 4 地区で構成されており、新しい基本計画においても、この 4 地区のそれぞれの特色や課題、あるいはまちづくりの方向性を実行していくことになるため、4 地区を代表しておられるそれぞれ委員の方に副座長をお願いしたい。現在は開催要綱では副座長は 1 人ということになっているが、人数の変更は可能か。

（事務局：地域起こし推進課長）

副座長の人数の変更については、本懇談会での決定により、要綱の改定を行うということで可能である。

(4) 広島市総合計画審議会での審議状況について

（元木委員）

広島市の今後 10 年を決める計画であり、一般的などこでも同じような計画ではなくもっと広島らしさのある計画を策定してもらいたい。また、資料の中で、男性の参画や女性の参画というのではなく、全員が取り組まなければいけないことである。

（企画総務局政策企画課）

審議会においても、委員からもう少し広島らしさを出せないかというような話があった

ので、もう少し特徴を出したものを考えていきたいと思っている。また、男女が共に取り組むこと、これは重要だと思っている。審議会でも、町内会など地域団体の代表者には男性が多いという意見があったため、こうした団体の代表として女性にも活躍してもらい、また、男性には子育てにもっと参加してもらいたいという意味を込め、項目のタイトルを「男女が共に活躍できる社会の実現」に変更することを検討している。

(尾田委員)

広島市も様々な問題点、政策も出ているが、私を感じるのは、広島市のいわゆる中心部に対するものが非常に強く、我々の住んでいる安佐北区、特に中山間部では、検討できない、検討しにくい政策が非常に多い。総合的に安佐北区のまちづくりをするのであれば、広島市の中心部との考え方と安佐北区の中山間部の考え方というのは違うと思っている。

(安佐北区長)

広島市総合計画審議会での審議状況について説明をしてもらったが、この場でこの中身について審議するという事にはならない。ご意見として上位の審議会には、本庁から来た職員がしっかり受け止めて伝えるので、御理解いただきたい。

(7) 安佐北区のまちづくりの方向性について

(水口委員)

昨年あれだけの災害を経験しているなか、危機感が薄いのではないか。これまでの方向性の継続が5件に、1件「安全で災害に強いまち」を加えただけである。それと区の現状と課題の中で人口減の話もあった。今後の人口減に対する対策など、いろいろ課題を抱えているが、そういったことは、いったいどの辺りまちづくりの中に盛り込んでいくのかなと思っている。

(事務局：地域起こし推進課長)

豪雨災害を経て、順次、復旧・復興を推し進めているが、当然、そういったハード整備もさることながら、安全で災害に強い、住民一体となった防災力の向上に向けた意識の向上など、ソフト面も合わせた考え方もあるということで提出させてもらっている。様々な取組みについて、方向性の説明やアクションプランでも細かく設定していきたい。

(大倉委員)

私は、子ども会をやっているが、若者がもう地域にはいない。いないというか関わりが全くなため、市全体、もっと言えば、国の全体のことになると思うが、若者が集えるまち、地域を作っていく必要があると考えている。そうした問題をどうすればいいか、どう懇談会の中で提言していけばいいのか、まとまっていないが気付きとして話をさせていただいた。

(大石委員)

この6つのまちづくりの方向性の中のどこに人口減・少子高齢化そしてこれから若者達が定住して生活ができるまちづくりが入っていくのか見えにくいような気がする。3つ目の「都市圏北部の拠点となるまち」が、人口を増やしていこうとか産業を増やしていこうとか生活ができる基盤を作ろうとかいうところになると思うが、ちょっと遠慮過ぎているのでは。もうひとつここに危機感、人口減の危機感とか産業を増やし、若者が定住するとい

うようなニュアンスのものを入れたらいいと思う。

(尾田委員)

自分は団地に住んでいるが、非常に空き家が増えている。空き家対策ということで専門家を招いて勉強もしているが、家財が置いてあり人が住んでいない家が非常に増えてきており、これを解決しないと新しい人に入ってもらうことはできない。このままでいけば人口減少が進むばかりでこの現象をなんとか安佐北区のほうでも考えていただきたいし、方向性の中に取り上げていただきたい。

(石井座長)

各地区での課題、喫緊の課題というのはそれぞれ中身が違うような気がしている。特に安佐北区の場合はまだ復興ということがまだ完全になしえていないという現状と同時に少子高齢化の人口減少等についての施策、そういったものを是非広島市のほうにも挙げていただくためにも、明確な具体的かつそういった方向性が出て行けばいいなと思っている。私ごとになるが、私が住んでいる区、特に町内会は、子ども会がもうない。であれば若い世代が少ないかといえ、そうでもない。地区の中で人と人との関わりというものが非常に薄くなってきており、子どもがいるのに子ども会には参加させない保護者などそういった人達に対し、大変苦慮している役員の方々がおられる。そういった観点から見たら、私は28年間ずっと安佐北区のそれぞれ4地区にも出かけさせていただいた経験もあるが、いつも感心するのはコミュニティが非常に充実していてあたたかい、その人間の関わりがあるような気がしている。文教大学があるその可部南地区、学区でも若い世代の方々が頑張っている。8・20の豪雨災害で大変な被害を受けた自治会に今は若い世代が戻って来て、盛況な青年部を結成し活動している様も見せてもらっている。そういう人との関わりがもっと強くなっていくような中身が込められた方向性が出たらいいと、皆さんの話を聞いて思った。先ほどのまちづくりの懇談会の進め方で説明があったように、まちづくりの方向性については2回目の懇談会で決定することになる。本日の意見をもとにしながら、安佐北区役所と各地区との検討の中でより具体的、そして喫緊の課題が優先されるような方向性になっていけばいいと思う。

(平岡委員)

今日も各町の代表の方がおり、町内の意見をまずまとめ、総合的に関係するものは総合する団体との連携を蜜にしながら取り組んでいくことが大事じゃないかと思う。

(事務局：地域起こし推進課長)

今日の意見を整理し、次回、まとめていきたいと思っている。